

vivo

7&8

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

JULY/AUGUST
2005

CONTENTS

水戸室内管弦楽団第62回定期演奏会1,2
SELF PORTRAIT	
あひるの会合唱団、横田鈴琉2,3
最近の公演から3,4
ネットマ&プチ情報5
インフォメーション6



写真上:水戸室内管弦楽団
下・左:小澤征爾 右:ラデク・パボラーク

“我らがマエストロ”小澤征爾の指揮でモーツァルトを満喫 7/21(木) 22(金) 23(土) 水戸室内管弦楽団第62回定期演奏会

小澤征爾と水戸室内管弦楽団(MCO)によるモーツァルト・プロジェクトは、ますます好調に進んでいます。MCO音楽顧問として、直接楽団の運営にあたっているマエストロ小澤征爾は、MCOを世界のトップ・クラスの室内管弦楽団に育て上げました。創立15周年という節目の時期を迎え、これまでもMCOのレパートリーの根幹をなしていたモーツァルトにあらためて取り組んでいます。

洗練されたサウンド、精緻なアンサンブル、個々の奏者の高いスキルと自発性といった要素が極めて高い次元で融合されなければ、現代の聴衆を満足させるモーツァルト演奏はありえません。MCOはまずその前提を軽々とクリアしていると言ってもいいでしょう。

マエストロ小澤が指揮するMCOを生でお聴きになられた方ならお分かりでしょうが、小澤征爾は指揮者としてというよりもアンサンブルの仲間として、MCOに加わっているように見えます。偉大なマエストロとしてオーケストラに君臨し、すべての演奏家を自らのタクトのもとに従わせるというやり方ではなく、MCOの各奏者が奏でる自発性溢れた音楽を注意深く聴き、それをどう支え、どう受け継いでいくか、他の奏者とともに瞬時にして考え、一つの方向を見出し、ある音楽の靈感を与える、それが小澤征爾のMCOにおけるスタンスのように感じられます。

そこにあるのは、無論、支配と従属の関係ではありません。対話と協調の関係です。人間的な生き生きとした感情が天才的な筆によって描かれるモーツァルトの音楽を演奏するのに、理想的とも言える土壌が、小澤&MCOにはあるのです。最

近演奏されたヴァイオリン協奏曲第5番 トルコ風(独奏:潮田益子)、管楽器独奏による協奏交響曲(独奏:工藤重典、宮本文昭、ダーグ・イェンセン、ラデク・パボラーク)、弦楽器独奏による協奏交響曲(独奏:川崎洋介、店村真積)、および交響曲第35番 ハフナー、第36番 リンツ、第40番 短調などの印象深い名演の数々は、その確たる証拠と言ってもいいでしょう。

未定だった1曲が決定

MCOのプログラムは、ただ名曲を並べただけのものとは正反対に、いつも綿密な検討を重ねた上で決定されます。今回のプログラムも、小澤征爾音楽顧問から提出されたプランをもとに、吉田秀和館長、小口達夫総楽団長が話し合って出来上がったものです。

さて、チラシなど事前のお知らせにおいて、プログラムが「...ほか」となっていたのはご存知ですね。未定だった1曲は、6つのドイツ舞曲K.571に決定しました!

モーツァルトが貴族の社交や儀礼のために様々な「機会音楽」を作曲したことは、よく知られています。アイネ・クライネ・ナハトムジーク ポストホルン といった有名作品の含まれる「セレナード」や、K.287やK.334の優美な傑作をもつ「ディヴェルティメント」は、その中でも比較的好く演奏されるジャンルですが、「舞曲」は滅多に演奏されません。したがって、今回は、影に隠れがちジャンルに一流指揮者が光を当てる貴重な機会となるのです。

ウィーンに住む人たちの舞踏好きは、何も19世

紀のワルツに始まるわけではありません。モーツァルトがウィーンで活躍した時代(18世紀後半)にも、人々は舞踏に興じていました。その舞踏の中心となっていたのがメヌエットですが、そのメヌエットがいくぶん形式ばった堅苦しい感じの踊りであったのに対し、若者を中心に急速に人気を博したのがより自由で生き生きとしたドイツ舞曲である、と言われます。ドイツ舞曲での踊りは、ステップよりも柔軟で激しい腕の動きが重視されましたが、音楽もそれに合わせるように、様式美や優美さよりも快活さや生命力を前面に出すようになります。

時の過ぎるのも忘れ、夜通して踊りに興じることもあったというモーツァルトのことですから、おそらく自らも踊るための音楽も含め、多数の舞曲を残しました。今回取り上げる6つのドイツ舞曲K.571には、通常の編成にシンバルや太鼓が加えられ、当時流行していたトルコ音楽の響きが出現します。その賑やかな音楽に耳を傾けていると、当時のウィーンの人々が熱狂的に舞踏に興じる様子が目に浮かぶようです。

怪物的ホルン奏者、ラデク・パボラーク

昨年7月、第58回定期演奏会でのモーツァルト 協奏交響曲 K.Anh.9(297B)(レヴィン復元版)の美しい楽興の時を思い出してください。フルート、オーボエ、ファゴット、ホルンという4つの管楽器の独奏者たちが織りなす妙技とアンサンブルの冴えが、小澤&MCOの豊潤な響きに支えられてホール空間に解き放たれた、あの素晴らしい時間を。

あの時、MCOに初登場し、まだ20代の若さながら、MCOが誇る傑出した管楽器奏者たち、工藤重典、宮本文昭、ダーク・イェンセンと堂々となりあひ、その技術と音楽性で聴くものを唖然とさせたのが、ホルンのラデク・パボラークです。

マエストロ小澤に「あれほど自由に軽々と吹くフレンチホルンは世界にはいない」と言わしめたパボラークは、第58回定期演奏会の後、MCOの新しいメンバーに迎えられることとなりました。また、パボラークは、小澤&MCOとの共演を心底喜び、「(現在首席奏者を務めている)ベルリン・フィルとの共演の前に、マエストロ小澤とMCOでぜひモーツァルトのホルン協奏曲を演奏し、録音も残したい」との希望を表明。それが早速、今回の演奏会で実現する運びとなりました。

モーツァルトの4曲あるホルン協奏曲は、ホルン奏者垂涎のレパートリーであり、録音でもデニス・ブレイン、ゲルト・ザイフェルト、ペーター・ダムといった歴代の名奏者たちが名演奏を残しています。しかし、今度のパボラーク&小澤&MCOによる演奏は、それらをも上回る凄い演奏になる予感がします。どうぞご期待ください!

小澤&MCOの プラハ

近年のMCOとのモーツァルト・プロジェクトにより、着々と後期六大交響曲の演奏と録音を進めて

いるマエストロ小澤。今回、交響曲第38番 プラハ を演奏しますので、まだ演奏会で取り上げていないのは第41番 ジュピター のみということになります。(先述した第35、36、40番のほか、第39番は1997年の第29回定期演奏会で取り上げています。)

さて、プラハ の後の3つの交響曲(第39番~第41番)は、しばしば「三大交響曲」と呼ばれ、モーツァルトの交響曲の総決算と位置づけられています。しかし、私としては、この プラハ も含めて「四大交響曲」と呼びたいくらい、プラハ は傑出した作品です。「三大交響曲」はそれぞれ、クラリネットを特徴的に使用した柔和で清澄な響き(第39番)、短調の響きによる疾走する悲しみ(第40番)、ギリシャの最高神ゼウス(英語でジュピター)にもたとえられる完璧な調和(第41番)といった際立った特徴を持っていますが、プラハ もまたこの3曲のどれにも組めない独自の魅力を持っています。すなわち、オペラティックとも言える劇的な感情の表出です。プラハ は、大成功を収めたオペラ フィガロの結婚 とほぼ同時期(1786年ごろ)に書かれており、フィガロ での生き生きとした感興の乗りが、この交響曲にも満ち満ちているのが感じられます。

MCOとしては、1999年の第40回定期演奏会においてトレヴァー・ピノックの指揮できびきびと

した生命力溢れる演奏を行っています。今回は小澤征爾とともにどのような演奏を聴かせてくれるのか、興味は尽きません。

さらに活動の幅をひろげて

小澤&MCOの話題はまだあります。まず、昨年開始された「子供のための音楽会」。7月22日、茨城県武道館を会場に、市内の小学校5年生および養護学校、盲学校の生徒さんを対象に行きます(一般の方は入場できません)。「小さいときにこそ本物の音楽を」との願いを胸に、小澤&MCOは今回も誠意を込めて、楽しく充実したパフォーマンスを繰り広げることでしよう。

また、7月21日の演奏会の模様はNHKが県域デジタル放送で生中継し、その映像と音声は同時に千波公園ふれあい広場に特設される大型スクリーンに野外中継される予定です(雨天時は、水戸市民会館)。文化運動の旗振り役としても大いに活躍されている加藤浩一水戸市長の発案で、より多くの市民の皆様へ一流の音楽を楽しんでいただきたいとの願いが込められています。冷たい飲み物やおつまみを片手に、気軽に小澤&MCOのモーツァルトを聴くのも、また格別な楽しさでしょう。(野外中継に関しては、インフォメーション欄をご覧ください。)

《関根》

SELF

長い歴史を持つあひる会合唱団が特別なプログラムでお届けする記念すべき演奏会

7/30(土) 第44回 あひる会合唱団 定期演奏会

- 鈴木良朝 指揮活動50年記念 -

あひる会合唱団は、第二次世界大戦後の混乱のまだ治まらない昭和26年の春、水戸市民合唱団として誕生し、今年で創立55年になります。

また、鈴木良朝先生が指揮をして50年になります。

創立以来の団員であり、半世紀にわたって一つの合唱団の指揮を続けてこられたことは、全国的にもあまり例をみないことかと思えます。

その間、鈴木良朝先生の進取の気概を反映してか、本県初演や池辺晋一郎先生の作品を中心としてアマチュア合唱団初演の作品に取り組むとともに、中世・ルネッサンス期のポリフォニー音楽も20年来続けてまいりました。

今年はその集大成として『鈴木良朝指揮活動50年』と銘打って特別なプログラムを企画いたしました。

第1ステージはポリフォニー音楽。16世紀を代表するスペインの作曲家ビクトリアの作品から O Vos Omnes (おお、すべての者たちよ)、Ave Maria (アヴェ・マリア)、Vere Ranguores Nostros (まこと我等の弱さを)の3曲を菅波ひろみ先生の指揮でおおくりいたします。

第2ステージは鈴木良朝先生と親交の深い作曲家、池辺晋一郎先生との対談を交え、本県出身の詩人、新川和江先生の詩による 人体詩抄 の中から“目”と“背中”、東洋民謡集II よ

り“みどりの少女は行ってしまった”、東洋民謡集III より“阿音三辺”の合計4曲を池辺先生の指揮で演奏いたします。

いずれも池辺先生の作曲で、人体詩抄・抄は当団創立40周年の時の委嘱作品です。また、東洋民謡集 は東京混声合唱団の委嘱作品ですが、I、II、IIIとも池辺先生の御好意により楽譜出版前にアマチュア合唱団の初演をさせていただきました。作曲者の意図をどこまで表現できるか、現在練習を重ねています。

第3ステージは鈴木良朝先生の指揮で、記念の演奏会にふさわしいモーツァルト作曲 戴冠ミサ曲 K.317 を全曲演奏いたします。

いずれのステージも鈴木良朝先生とあひる会合唱団を象徴するものです。お楽しみいただければ幸いです。

あひる会合唱団 団長 中島英俊



写真左;あひるの合唱団
右;横田鈴琥

尺八音楽の魅力を伝えたい
水戸市在住尺八奏者、横田鈴琥による、
古典から現代までの名曲を綴った演奏会

8 / 27(土) 横田鈴琥 尺八リサイタル

尺八への強い関心を持った始まりは、中学二年の音楽の授業で「春の海」のレコードを聴き、感動した時でした。長い学校生活におけるその一瞬が、牽いては私の人生を左右することになりました。その時すぐに「この楽器を操ってみたい」と思いましたがそのまま時間は過ぎ、それは昭和42年、茨城大学入学を機に訪れました。

当時小澤征爾指揮する武満徹作曲の「ノヴェンバー・ステップス」や「エクリプス」等の曲に尺八や琵琶が用いられ、共に世界的に一大センセーショ

ンを巻き起こしつつありました。が、国内では未だ和楽器に関し、特に尺八は一般に古臭い印象を持たれていました。その古臭さに惹かれた私は古典を習得するために、その後人間国宝となる青木鈴慕師の門を叩き、内弟子となって勉強を始めました。ちなみに、内弟子の主な仕事は師匠のカバン持ちですが、いつも師匠の後をくっ付いていることで、礼儀作法や業界の仕組み等を学んでいきます。内弟子になれば、尺八の「稽古」はみっちりつけて貰えると思っていましたが、実際は逆に殆ど無くなってしまいました。しかしながらいつも師匠の側にいることで、曲は自然と体で覚え、いわゆる勉強して覚えたものよりもはるかに身につけているように思います。

「稽古」に関するもう一つのエピソードを。芸大で民族音楽関係の講師をしていた方が個人的に尺八を習い始めて7年ほど経ったある時「稽古に行ってもただ一緒に吹くだけ。何の注意・アドバイスも無く、それでおしまい」という方法に当初は戸惑いま

した。でも今は、その効用がわかってきました」と述べておられたのを思い出します。いわゆる「以心伝心・阿吽の呼吸」ということでしょうか。

私も芸大当時のレッスンを振り返りますと、演奏に関する詳細な説明や注意は殆どありませんでした。まれに言葉による指導がありましても、禅問答のように難解で理解できません。しかしこれに関して「どういう意味ですか?」とは質問せず『そのうちに分かるだろう!』との考えで次のレッスンに臨んだ次第です。これらの事柄は、まさに日本的な文化の一面かも知れません。

さて、現在に伝わる「古臭い」尺八音楽は、江戸時代の虚無僧制度により進歩発展し、その演奏は気迫に加えて実に繊細緻密な奏法を併せ持つ独特な音楽となっております。この魅力をなるべく多くお伝えできるようにと願いつつ、準備に励んでおります。

横田鈴琥

最近の公演から



1



2

クリスティーナ・ブランコ

ポルトガルの心、ファドを歌う(4月23日)

ボサ・ノヴァ、ショーロ、ジャズのテイストを感じさせつつ、盟友カシュテーロたちの柔軟な撥弦楽器の織地に包まれて、満場の聴衆の心に染み込んでゆくクリスティーナ・ブランコの歌声。ファドを「外の世界」へ開いてゆく彼女の音楽は、ファド・ファンにも、ファド初めての方にも、等しく新鮮な感銘を与えていたように思います。水戸の聴衆の集中力とあたたかい雰囲気「心から感動した」とは彼女たちの言葉。これは社交辞令ではないな、と思いました。実は、前日の彼女たちの東京公演を聴きにいったのですが、ファドの熱心なファンが多い客席からは、拍手とともに、彼女たちの「新しいファド」に対する微妙な抵抗感もわずかに感じられました。しかし、水戸の客席は、ファドの既存の型やイメージから飛翔しようとする彼女たちの音楽を、どこまでも新鮮に受け止めようとするオープンな雰囲気に包まれていたと思います。それを証明するように、最後のアンコール「これもファド」では、彼女の呼びかけに聴衆が応え、舞台と客席が一体となって歌声を会場中に響き渡らせました。なお当日の演奏曲目は「プチ情報」をご覧ください。《矢澤》アンケートから 水戸芸でブランコが聞ける

とは思っていませんでしたので大感激です。(中略)水戸芸、すごく頑張ってるなと思います(日立市:E.A.さん) 澄み切った声と哀切感ただようメロディに魅了されました(水戸市:T.M.さん)

とても華麗で物悲しく、聞きほれてしまう(山形県米沢市:H.S.さん) 魂をゆさぶられる様な感動、また聞きたい(日立市:M.M.さん) ファドは元来暗い曲が多いと思っていましたが、明るい曲で楽しく聴かせていただきました(土浦市:F.M.さん) ファドをさくのははじめてでした。歌もすばらしかったけど、ギターもすばらしかった。あんなに表現の幅があるのかと感動しました(無記名の方)

高山三智子 ピアノ・リサイタル(4月26日)

水戸在住の高山三智子氏によるリサイタル。ベートーヴェンの「悲愴」ソナタに始まり、モーツァルト「トルコ行進曲」、ショパン「幻想即興曲」作品66など広く知られている名曲が贅沢にも一夜に集められた。また、高山氏がもともと大事にしているロシア作品から、今回はラフマニノフの前奏曲の数々が披露された。そして最後は「ハンガリー狂詩曲」第12番 他のリスト作品。高山氏のピアノへのひた向きな想いが、情熱的な演奏を生み出し、聴衆を惹きつけた。アンコール

最近の公演から



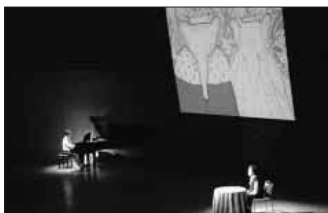
1



2



3



4



5



6



7



8

は ショパン:ノクターン 作品9の2 《中村》アンケートから 日常の雑事から離れてホットする時間でした。すばらしい演奏にうっとりです。(無記名の方) 最愛の友人を亡した直後に浸った 悲愴 に、勇気づけられた思いです。ラフマニノフのきらめく様な音に癒されました。(友部町 T.H.さん) それぞれ個性の違う作曲家の曲を、特性を活かし、生き生きと演奏されていた。一つ一つの音に心がこもり感動的だった。リストの曲は躍動感にあふれ、力強く、最高だった。(水戸市:T.O.さん)

音楽物語 ぞうのパバル(5月3日)

昨年の「復活」後2度目の『パバル』。ピアノの高橋アキさん、おはなしの長野羊奈子さん、そして映像操作のわれらがスタッフ馬場千恵、三人のコンビネーションはますます好調。何度聴いても観ても飽きのこないパバルの物語とブランクの音楽、そしてサティの曲。きっとリピーターの方も少なくないことでしょう。昨年もそうですが、お子さんたちがとてもお行儀よく、集中して聴いてくださり、出演者もスタッフも感謝感激です。来年はパバル生誕75周年。今年小田急百貨店でパバル展もありました。来年も実現し、なにか特別な仕掛けにしたいなあ...と思っております。ご期待ください! あ、それから水戸の『パバル』は喜んで館外公演やりますので、「うちの街にパバルを呼びたい」という方はぜひご一報を! 《矢澤》アンケートから スクリーンがすごくきれいでした。ピアノ1台でいろんなひょうげんができてすごいなおもった。また見たい(龍ヶ崎市:たか文君7歳) ピアノをひいたあきさんがすごかった。おはなしもおもしろかった(水戸市:ふう子さん7歳) パバルがけっこうしたところがうれしかった(ふさこさん6歳) パバルがおおさまになってセレストといっしょにけっこうしきをあげたり、おまつりのがつきをいっばいつかっているのがすごくたのしかったです(水戸市:ゆり乃さん8歳) (サティの題名のない)きょくのなまえは「おひめさまどこいったの」です(水戸市:のどかさん5歳) 子供も最後まであきずに見ていました。音楽、スライド、朗読ととてもよく調和していました(水戸市:Y.A.さん) 7年前、お腹の中にいた二人目の子と来ました。子供たち、お二人のつくる物語の中に引きこまれていました(日立市:E.S.さん)

川又明日香 ヴァイオリン・リサイタル
(5月22日)

17歳の川又明日香さんの初リサイタル。世界に向けて羽ばたく川又さんが、芸術館を初リサイタルの場に選んでくれたのは嬉しいことです。

「芸術館はホームグラウンドのよう」と頼もしい川又さん、モーツァルト(K.526)、プロコフィエフ(ソナタ2番)、イザイ(無伴奏ソナタ2番)、ブラームス(ソナタ1番)という重量級プログラムを熱演。丹 千尋さんの好サポートに支えられ、みなぎる表現意欲で聴衆を魅了しました。アンコールはヴェニヤフスキ 華麗なるポロネーズ。この日演奏会にいらっしゃったお客様は、明日香伝説のスタートを目撃したのかも!? 《矢澤》アンケートから 若くて! うらやましいなあ。久しぶりに元氣もらいました。(中略) これからもモリモリ がんばって下さい(ひたちなか市:M.F.さん) 来て きて よかった(水戸市:T.M.さん) 4月の光る風と5月の風の薫りを、一度にgetしたような気持ちになります。20年先はどんな演奏をなさるでしょう...(水戸市:F.K.さん)

「茨城の名手・名歌手たち 第16回」

出演者オーディション(5月28日)

「茨城の名手・名歌手たち」も、今年で第16回目を迎えます。10月8日[土]に開催する演奏会に先立ち、5月28日[土]に出演者オーディションが行われました。今回の対象は、管楽器、打楽器、声楽、器楽アンサンブルの各部門。受験者の熱演によって、会場は緊張感に包まれていました。のびのびと演奏できた方、緊張のあまり満足のいく演奏ができなかった方、様々でしたが、皆さんの真剣な眼差しは一樣でした。厳正な審査の末、選ばれた以下の8名が今秋ステージに上がります。フレッシュな名手・名歌手たちを、どうぞ応援してください。

《馬場》

「茨城の名手・名歌手たち 第16回」

2005年10月8日[土] 18:00開演

司会:畑中良輔

出演(受験番号順):

高野 綾(マリンバ)、川澄萌野(オーボエ)、駒橋雅代(クラリネット)、寺山香澄(テューバ)、川上茉莉絵、清水亜矢、志村江美、石水晶子(以上、ソプラノ)

応募総数 61

(管楽器25 / 打楽器1 / 声楽28 / 器楽アンサンブル7)

審査委員(敬称略・五十音順)

審査委員長:畑中良輔

管楽器・打楽器・器楽アンサンブル:池辺晋一郎、岩井宏之、梶原征剛、畑中良輔、水野信行
声楽:池辺晋一郎、岩井宏之、小泉恵子、畑中良輔

声楽の審査委員を予定していた伊藤京子氏は、急病のため審査できませんでした。



* nettama=ネットワークする猫
タマ。
芸術館のコンサートをサカナにい
ろんなどところへnettamaします。

K 412 / 514(386b)?

なんだかこんなタイトルの「ネットタマ」読んだことがあるなあ、とご記憶の方も多いのではないだろうか。そう 昨年 の vivo6 / 7月号「ネットタマ」にて、僕は水戸室内管弦楽団第58回定期演奏会の演奏曲目、モーツァルトの協奏交響曲 K Anh 9(297B) あるいは K³ 297b(Anh C 14 01) に触れ、このややこしい作品番号にひそむミステリーに迫ってみた。

今回取り上げる、またまたややこしいこの作品番号は、MCO第62回定期演奏会の曲目であり MCO新メンバーのラデク・パボラークが独奏を務める、同じモーツァルトのホルン協奏曲 第1番 二長調 を指す。この曲も、K(ケツヘル)番号が3つ「412」「514」「386b」と並び立ち、いったい何を意味しているのか興味をそそられる。そこで今回も、その謎解きを試みよう。『モーツァルト事典』(東京書籍)などを参考にさせてもらったところによ...

まず、412 / 514というのはケツヘル初版でつけられた番号。なぜふたつの番号にわかれているかという...この曲は2つのアレグロ(速い)楽章からなり、協奏曲としてはまん中の緩徐(ゆっくりした)楽章を欠く例外的な楽章構成なのだが、それぞれの楽章が別個に伝承されてきたのだ。つまりオーケストレーションまで完成された第1楽章とホルン・パート以外ほとんどスケッチ状態の終楽章からなる草稿(以後「草稿A」としよう)と、オーケストレーションまで完成された終楽章だけが書かれている草稿(こちらは「草稿B」)。これらはそれぞれ「草稿A」が「K 412」が「草稿B」が「K 514」と、それぞれ独立した番号を与えられた。ふたつの草稿をまとめれば1曲の協

奏曲をなすため、続けて演奏するときには2つのケツヘル番号をスラッシュでつないだ「K 412 / 514」というダブル番号が付されることになる。しかしのちの改訂ケツヘル第6版では「ダブル番号は面倒」と考えたのか「K⁶ 386b」という統一番号を新たに付した。しかし、その後も呼び慣れた初版の番号が残ってしまい、そこにケツヘル第6版の番号もカッコで附記される形になったので、3つの作品番号が入り乱れる(?) 現行の表記となったわけだ。

ところが、この曲の謎解きはこれで終わらない。従来この曲は、1782年末に作曲され、モーツァルトの4つのホルン協奏曲の中では最初に手がけられたもの、という推測がなされ、よって「第1番」と呼ばれていた。実は「草稿B」には「ウィーン、1797年4月6日、聖金曜日」という謎の日付が書かれているのだが、ご存知の通りモーツァルトは1791年に世を去っているわけだから、この日付は「モーツァルトの冗談に違いない」と理解されてきた。

しかし、近年の研究は、この曲の成立年代の定説を覆してしまった。アラン・タイソンという人が始めた「用紙研究」のおかげなのだが、これは要するに作曲者の自筆譜に用いられた用紙を研究し、それが何年ごろ用いられていたのか調べることによってその楽曲の作曲年代を割り出す、というアプローチだ。これによってタイソンは、この協奏曲が書かれたのは1791年、モーツァルト死の年の最後の10ヶ月である、と結論づけたのだ。なぜ「草稿A」が未完なのか、しかも通常の協奏曲に必ずあるはずの緩徐楽章を欠いているのか、それはつまりモーツァルトが作曲途中で死んでしまい、終楽章を未完のままに、緩徐楽章を手つ

かずのままに残ってしまったからなのだ! では「1797年」の日付を持つ「草稿B」とはいったい何か? ここでは筆跡鑑定が謎解きに威力を発揮した。実は「草稿B」の筆跡はモーツァルト自身ではなく、レクイエムを補筆完成させた弟子のジュスマイヤーのものだった。さらに、筆跡鑑定から、「1797年」と思われていた日付は「1792年」であることがわかった。1792年4月6日は、たしかに聖金曜日にあたる! つまりこの「草稿B」は、未完の協奏曲楽章のジュスマイヤーによる補筆完成版である、という可能性が極めて強くなったのだ。

この説が正しければ、「草稿A」の終楽章スケッチにはない「草稿B」に出現する不思議なエレミアの哀歌の引用についても合点がいく。つまりジュスマイヤーが師の死を悼み、この哀歌を引用した、という推測が成り立つのだ。すごい謎解きだ!

いまのところこの曲のケツヘル番号はそのままだが、新しいケツヘル番号がつけられるときには、きっと600番台、最晩年の時期の番号になるかもしれない。それにしても、モーツァルトの書いた最後の協奏曲はこれまで、クラリネット協奏曲だと思われていたわけでしょう。あの透明な至純の美の世界を、僕らは「死を前にモーツァルトがたどり着いた最後の心の境地」として理解してきたわけだけども、しこの陽気で活力にあふれたホルン協奏曲が、真の「最後の協奏曲」だとしたら...? 僕たちが持っている晩年のモーツァルトのイメージはいささかの変更を強いられてしまう。まったく、モーツァルトという人は、なんとというつきせぬ謎なんだろう!

プチ情報 速 達

4月23日(土)『クリスティーナ・ブランコ ポルトガル人の心、ファドを歌う』の曲目をご紹介します。
1.難船 2.山の娘の唄 3.風の七つのかげら 4. Ai vida 5.ショーロ(ああ船がわたしを運んでいてくれたら) 6.クリスタル(まだワインが残っていた) 7.ヴェーダ・トリシュテ(悲しい人生) 8.ファド・ポルトゥゲシュ(ポルトガルの詩) 9.春 10.ヴ

イアナへ行こう 休憩 11.[インストルメンタル] 12.わが愛 13.襲撃 14.喪失のファド 15.暗い はしけ 16.別れのソネット 17.初恋 18.オルガンの音 19.かもめ 20.ミュージズ 21.恋人は舟乗り アンコール1:私はポルトガルにいる夢を見た ~アンダ・ルジーア アンコール2:あこがれ アンコール3:これもファド

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM 水戸「芸術よもやま話」金曜日 18:15頃 ~ 15分ほど。水戸周辺 83.2MHz、日立周辺 84.2MHz。

水戸室内管弦楽団第62回定期演奏会(指揮:小澤征爾)

大スクリーンコンサートのお知らせ

NHK県域デジタル放送が、水戸芸術館から生中継で放送します。これを利用して鮮明な映像とクリアな音質で演奏会場の雰囲気そのままにお楽しみいただける大型スクリーンコンサートが開催されます。

当日会場では、入場整理券の受付番号によりMCOオリジナルTシャツやCDの当たる抽選会もありますので、千波湖畔での夕涼みをかねてご家族・友人お誘いあわせのうえご来場ください。

日時 / 7月21日(木)開場17:30 演奏時間18:30 ~ 20:30

場所 / 千波公園ふれあい広場(雨天時は水戸市民会館に変更)

応募方法 / 水戸市役所・地域振興課(TEL:029-224-1111 内線312、313)へお問い合わせください。

チケット・インフォメーション 7月9日(土)発売分

山口泉恵 ピアノ・リサイタル

10/2(日)14:30開演 料金(全席自由):¥2,500

茨城の名手・名歌手たち 第16回

10/8(土)18:00開演 料金(全席自由):¥1,500

マティアス・ゲルネ パリトン・リサイタル

10/16(日)14:00開演 料金(全席指定):¥4,500 ペア券¥8,000

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

水戸室内管弦楽団第62回定期演奏会

7/21(木)...完売、7/22(金)...完売、7/23(土)...完売

あひるの合唱団 第44回定期演奏会 7/30(土) ...自由席

横田鈴鈴 尺八リサイタル 8/27(土) ...自由席

ミト・デラルコ 第8回演奏会 9/11(日) ...中央、左右・裏

ソング・シアター ワイルからガーシュインへ

9/24(土) ...1F・2F、3F正面

6/21(火)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な7・8月のスケジュール

コンサートホールATM

水戸市芸術祭 市民音楽会

7/2(土)17:00開演、7/3(日)13:00開演 入場無料

水戸室内管弦楽団第62回定期演奏会

7/21(木)7/22(金)7/23(土) 各日18:30開演

料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000

第44回 あひるの合唱団定期演奏会 - 鈴木良朝 指揮活動50年記念 -

7/30(土)14:00開演 料金(全席自由):一般¥1,500 高校生以下¥700

水戸市芸術祭 茨城交響楽団水戸芸術館公演 ~ 木村大を迎えて ~

8/6(土)18:00開演 料金(全席指定):A席¥2,000 B席¥1,500

水戸市芸術祭 少年少女合唱祭 8/7(日)14:00開演 入場無料

水戸市芸術祭 ジュニアオーケストラ演奏会

8/21(日)14:00開演 料金(全席自由):¥500

横田鈴鈴 尺八リサイタル 8/27(土)15:00開演

料金(全席自由):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500

エントランスホール

パイプオルガン ブロムナード・コンサート

7/2(土)12:00/13:30 7/17(日)12:00/13:30 7/31(日)12:00/13:00

8/13(土)13:30/15:00 8/20(土)13:30/15:00

ヴァリエーションズ

(茨城県内の演奏家による、さまざまな器楽や声楽が登場するシリーズです。)

8/14(日)12:00/13:30 出演:ブランブル六重奏団(木管五重奏)

夏休みスペシャル

8/28(日)12:00/13:30 出演:山口綾規(オルガン)

入場無料 演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

水戸市芸術祭 バレエフェスティバル 7/3(日)

瑞穂バレエ教室 14:00開演 料金(全席指定):¥500

シオンバレエ 16:00開演 料金(全席指定):¥500

第20回水戸映画祭

7/9(土)12:00 ~ 「トニー滝谷」 13:40 ~ 「カナリア」

16:20 ~ 「エターナル・サンシャイン」 18:30 ~ 「パッド・エデュケーション」

7/10(日)12:00 ~ 「パンジージャンプする」 14:10 ~ 「ひとまず走れ!」

16:20 ~ 「ビヨンド the シー ~ 夢見のように歌えば ~」 18:40 ~ 「隣人13号」

料金(全席自由):各¥1,000(1作品毎の入替制)

Performance Theater 水と油『不時着』

7/16(土)19:30開演 料金(全席自由):一般¥2,500 学生¥1,500

ACM劇場プロデュース公演 現代劇作家の新作

『La Cucaracha ラ・カラチャ - ゴキブリの歌』

7/29(金)19:00開演、7/30(土)14:00開演、7/31(日)14:00開演

料金(全席自由):一般¥2,500 学生¥1,500

水戸市芸術祭友の会第40回鑑賞会 柄本明ひとり芝居『煙草の害について』

8/10(水)19:30開演 料金(全席指定):一般¥3,500 友の会会員¥2,000

水戸市芸術祭 市民演劇祭

茨城大学演劇研究会 8/19(金)19:00開演

劇団遊女舞台 8/20(土)19:00開演

舞踊劇団「創」(生まれる) 8/21(日)16:00開演

劇団プロフェッショナル ファウル 8/26(金)19:00開演

劇団OH-NENS 8/27(土)19:00開演

THE One's Full 8/28(日)16:00開演

料金等詳細につきましてはお問い合わせ下さい。 TEL / 029(225)3555

現代美術センター

水戸市芸術祭 美術展覧会 第1期 日本画・洋画・彫刻・工芸美術

6/26(日)~7/8(金)9:30~18:00(入場は17:30まで) 入場無料

水戸市芸術祭 美術展覧会 第2期 書・写真・デザイン・インスタレーション

7/13(水)~7/24(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)

休館日:7/19(火) 入場無料

「HIBINO EXPO 2005 日比野克彦の一人万博」

8/6(土)~9/19(月・祝)9:30~18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日

入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

茨城の主な7・8月の演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020

前橋汀子 ヴァイオリン・リサイタル 7/9(土)18:00開演

常陽藝文センター TEL / 029(231)6611

300人PREMIUM CONCERT 秋吉敏子 8/11(木)19:00開演

サマー・ジャズ・フェス05

エリック・アレキサンダー:ts&ニコラス・ペイトン:tpその他 / フライド・プライド

8/28(日)17:30開演 (問)EVANS TEL / 029(251)6665(13:00~)

ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122

Concerto! 2005 イバラキ室内管弦楽団特別演奏会 8/13(土)14:00開演

日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711

第2回野外オペラ『カルメン』(全4幕・字幕つき原語上演) 8/20(土)18:30開演

東海文化センター TEL / 029(282)8511

スパンホルム シンガーズ2005・東海公演 7/16(土)18:30開演

ギター文化館 TEL / 0299(46)2457

井上學・富山幸男 デュオコンサート 7/3(日)15:00開演

高野行進vs伊藤芳輝 7/31(日)15:00開演

ジャポール TEL / 029(852)5881

チェコ・フィルハーモニー六重奏団演奏会 7/9(土)15:00開演

木村大&アンドリュウ・ヨーク スペシャル・ギター・コンサート 7/31(日)18:00開演

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] 2005年7月発行 第108号

編集・発行 / 水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

馬場千恵 矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west

印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...抒情派の秋。ジャジーな秋。
どちらもとよろし。